

開発と社会運動

—先行研究の検討—

重富 真一 編

2007年3月

独立行政法人 日本貿易振興機構

アジア経済研究所

はじめに

貧困、生命への脅威、人権蹂躪、自由の抑圧、資源剥奪……。開発途上国に住む人々は、人間らしい生存自体を脅かす問題に日々直面している。しかも悪いことに、人々が声を出そうとしても、その声を反映させる仕組みができていない。選挙があっても人々の要求がそのまま伝わるわけではないし、そもそも民主的な選挙自体が行われていないこともある。行政の末端を担う官僚は、人々の要求を聞くよりも、人々を従わせ、無視し、ひどい場合には搾取することさえある。労働団体など影響力のある組織が代弁してくれるのは、民衆の一部、要求の一部である。そこで人々は、フォーマルな制度にならない方法で、自分たちの声を伝え、状況を変えようとするであろう。そうした行動を励まし、支援する人たちも現れてきた。

「社会運動」と呼ばれるこうした行動について、研究者は様々な分析ツールを編み出してきた。しかしそれらは欧米先進国での現象を前提としたものであるから、現在の途上国における社会運動にそのまま適用できるわけではない。途上国という文脈で現れる社会運動現象は、いかなる枠組みをもって理解可能か——これが本研究会の問題意識である。

1年目の2006年度は、Nick Crossley, *Making Sense of Social Movements* (Buckingham & Philadelphia: Open University Press, 2002)をテキストに使いながら、既存理論の検討をおこなった。またミズーリーコロンビア大学（アメリカ）の和田毅先生からメキシコにおける社会運動の新しい担い手について、南京大学（中国）の張玉林先生からは中国の環境問題を巡る社会運動について、それぞれ日本滞在中の貴重な時間をいただいております。オブザーバーの米村明夫氏にも、メキシコ先住民の学校要求運動についてご報告頂いた。これらの報告は、途上国での社会運動現象をどういった分析視角で捉えればよいか、我々に重要な示唆を与えてくれた。

こうした共同討論を踏まえて、各委員が自分の研究テーマに関する先行研究をレビューしたのが本報告書である。これは来年度おこなう予定の事例研

究を、単なる現象の紹介に終わらず、理論的含意を主張できるものとするための準備作業である。本報告書が、同様の関心をもつ研究者、活動家諸氏にも共通の知的インフラを提供できれば幸いである。

2007年3月

編者

目次

はじめに	i
第1章 開発と社会運動—途上国における社会運動研究の視座—	
重富真一…	1
はじめに	1
第1節 社会運動理論のレビュー	3
第2節 途上国の社会運動研究	19
第3節 途上国社会運動研究の方法論的課題	28
第2章 環境汚染被害者の行動に関する研究資料	
—中国の事例研究に備えて— 大塚健司…	37
はじめに	37
第1節 中国における環境汚染被害者の行動に関する研究	38
第2節 日本における公害被害者等の社会運動に関する研究	44
むすびにかえて—今後の研究課題—	52
第3章 インドの社会運動研究—女性運動研究を中心に— 村山真弓…	61
はじめに	61
第1節 インドにおける社会運動研究	62
第2節 女性学、フェミニズム視点からの女性運動研究	69
第3節 社会運動理論と女性運動	73
おわりに	79

第4章 ナイジェリア石油産出地域における社会運動の	
展開とその背景 (文献レビュー)	望月克哉… 85
はじめに	85
第1節 産油地域の住民をめぐる動き	87
第2節 問題への視点・論点の推移	91
むすびにかえて	94
第5章 民主化後の南アフリカにおける社会運動	
—事例紹介と先行研究整理—	牧野久美子…101
はじめに	101
第1節 南アフリカのエイズ政策と社会運動	102
第2節 民主化後の社会運動に関する先行研究	106
第3節 政策形成と社会運動	110
第6章 ラテンアメリカの民衆社会運動	
—抵抗・要求行動から市民運動へ—	幡谷則子…123
はじめに	123
第1節 ラテンアメリカにおける社会運動と研究の流れ	124
第2節 「新しい社会運動」論の影響と	
ラテンアメリカにおける適用	128
第3節 新しい形態の民衆運動：	
都市下層民の運動、CEB、人権運動	133
第4節 急進的社会運動の再生？：	
今日の民主化の質を問う民衆の抵抗・要求運動	142
おわりに：ラテンアメリカの社会運動	
—自律的市民社会の形成を求めて	149

執筆者紹介

- 第1章 重富真一 アジア経済研究所地域研究センター専任調査役
- 第2章 大塚健司 アジア経済研究所新領域研究センター
環境・資源研究グループ研究員
- 第3章 村山真弓 アジア経済研究所地域研究センター専任調査役
- 第4章 望月克哉 アジア経済研究所新領域研究センター専任調査役
- 第5章 牧野久美子 アジア経済研究所地域研究センター
アフリカ研究グループ研究員
- 第6章 幡谷則子 上智大学外国語学部助教授

このほか、宇佐見耕一（地域研究センター・ラテンアメリカ研究グループ長）、中村正志（地域研究センター東南アジアⅠ研究グループ）、寺尾忠能（新領域研究センター環境・資源研究グループ）、船津鶴代（同）、米村明夫（開発研究センター次長）山田美和（開発研究センター法・制度研究グループ）、の各氏がオブザーバーとして研究会に参加した。